

競 技 注 意 事 項

本大会は、2025年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

- (1) 練習は、各練習会場の日程、諸注意を確認して実施すること。
- (2) 練習会場、競技役員の指示により安全に留意して行うこと。
- (3) 練習時間、練習場所については、天候の状況によって変更や制限をする場合がある。
- (4) メイン競技場、補助競技場トラックでは逆走を禁止する。
- (5) 棒高跳の練習は、競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に支障が出ないように、当該審判員の指示に従って行うこと。

【練習会場】

★練習会場の縁石（1レーン内側）は勝手に外さないこと。跳躍や投てきの練習で、縁石を外す必要がある場合は、各練習会場にいる審判員に声をかけて、必ず審判員に外してもらうこと

(1) メイン競技場

- ① トラック競技及び走幅跳、三段跳ピットの使用ができる。ただし競技の準備を優先する。
- ② バックストレートにおいて、300mH（8・9レーン）の練習を行うことができる。
- ③ 練習時間は、開場から競技開始30分前までとする。

(2) 補助競技場

- ① レーンの使用については以下の通りである。
 - ア 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - イ 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ウ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路7～11レーンのみとする。
 - エ 多目的広場側直走路8・9レーンは女子100mH、10・11レーンは男子110mHとする。
 - オ 第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子300mH、6レーンは男子300mHとする。
- ② 個人の練習道具（メディシンボール、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止する。
- ③ 投てき競技で、回転投法ではない砲丸投の投てき練習はトラック外側の砲丸投ピットで行うことができる。また、投てき物を持たない基本練習を行うことができる。

(3) 雨天練習場

- ① 雨天練習場内でのピストルの使用は禁止する。
- ② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲート側からの入退場は禁止する。
- ③ シート・マット等を敷いて独占的な使用をすることを禁止する。
- ④ ウォーキング・ジョギング等のウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよいが、それ以外の練習は、補助競技場等、他の練習会場で行うこと。
- ⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ ハードル・ミニハードル・ラダー等、個人の練習道具を持ち込んではいけない。

(4) 多目的広場

- ① 円盤投・ジャベリックスローの練習ができる。練習の際には、練習場係の指示に従い、安全に留意して実施すること。
- ② 個人の練習道具（メディシンボール、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は決められたエリア内で実施することができる。その際、他の選手に危険を及ぼすことがないように十分配慮すること。
- ③ 当該種目の招集完了時刻以降の投擲練習はできない。

2 スパイクシューズ等の制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横や後方につけること。
- (3) 3000mは別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所で配布する。

4 選手招集について

- (1) 選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- (2) 選手招集開始時刻・完了時刻は、競技時間を確認すること。
※1：棒高跳は現地で招集を行う。
※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行う。競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- (3) 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- (4) 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出ること。

5 競技について

- (1) 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- (2) その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (3) トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- (4) TR16.5（不適切行為）が認められた場合は、審判長の判断により「イエローカード」が出されることがある。同じ競技会の中で2度の規則違反があった場合は失格となる。
- (5) スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- (6) 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- (7) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (8) 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- (9) トラック種目は予選・決勝を行う。
- (10) フィールド種目（走高跳・棒高跳を除く）は、2回の試技終了後、上位8名を決定する。
上位8名はさらに3回の試技を行う。
- (11) 選手は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。コーチエリア付近（エリア指定あり）で選手に手渡して映像を見せることができる。選手が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。なお、メインスタンドから撮影機器を手渡しすることは禁止とする。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。
- (12) フィールド競技における競技中の選手への水分の差し入れは、競技該当審判員を通じて選手に手渡すことができる。

6 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行う。
- (2) 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1・2コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：棒高跳・投てき競技

第3ゲート：走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および150m、1000m、走幅跳、三段跳

8 跳躍競技について

走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。

		練習			
走高跳	男子	145	150～180まで5cm刻み	180cm以降3cm刻み	195cm以降2cm刻み
	女子	120	125～145まで5cm刻み	145cm以降3cm刻み	166cm以降2cm刻み
棒高跳	男子	231	251～340まで20cm刻み	341cm以降10cm刻み	
	女子	181	201～241まで20cm刻み	241cm以降10cm刻み	

三段跳の踏切位置は、男子 11m00 女子 9m00 とする。

9 その他

- (1) やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- (2) 応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- (3) 更衣室については、大会受付後方スタンド内通路に入って右側にあるので利用してもよい。
- (4) 記録は、記録の掲示については、競技終了後、大型映像で表示する。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認できる。

<愛媛陸協選考基準（U16 都道府県代表選手枠種目）>

U16 都道府県代表選手の選考基準は以下の通りとする。

- (1) 本記録会に参加（エントリーを含む）した、2010年1月1日から2013年4月1日の間に生まれた競技者から県代表選手1名を選考する。
- (2) 本大会における最上位者を優先する。ただし、本大会までの公認記録が本大会の最上位者の公認記録を上回る選手がいた場合は、愛媛陸協強化委員と育成委員からなる選考委員会で決定する。
- (3) 推薦した選手が辞退した場合は、2番目以降の候補選手が繰り上がるものとする。
- (4) 代表選手については、選考会終了後、当該所属長宛に連絡する。